

地区センター事務長対談 羽田 × 水沢南

横のつながりの協働で次のステップに

——市協働のまちづくりアカデミーを受講したきっかけは？

佐藤幸市事務長 水沢南自治振興会では、指定管理を見据えて、コミュニティ計画の見直しなどの準備を行っていました。その流れで、人材育成講座があるからと、振興会の事務局長だった私に声が掛かったんです。

及川辰徳事務長 「まちづくりをしてみたい」と思っても、事務長になったばかりで、どうすれば良いか分からなかった。アカデミーで学べば、手法や展望などが見えてくるのではないかと思いました。

——受講してみた感想は？

及川 話し合いが大切だと気付かされました。理想を現実的なものにして実行することは一人ではできない。いろいろな人と意見を突き合わせてこそだと。

佐藤 いろいろな年齢・地域の人



1 ウォークラリークイズの出題例 2 ピンゴ抽選会には多くの子どもたちが参加し大盛況 3 及川事務長が扮した“かぼちゃまん”。子どもたちの見守りとウォークラリーのスタンプ役を兼ねた 4 イベントの開始を待つ親子連れが長蛇の列を作った



水沢南地区センター
佐藤 幸市 事務長 (62)

昭和29年福島県生まれ。大手電機メーカーに勤務したうち10年間は本市で過ごし、水沢南地区に自宅を構える。退職後、水沢南自治振興会の事務局長を経て、同地区センター事務長に就任。市協働のまちづくりアカデミー1期生(平成25・26年度生)

——アカデミーでの経験はどう生かされていますか？

佐藤 アカデミーでは、テーマを絞り切った一つの事業を実践した。それを達成できたことは良いこと。でも市全体が良くなるためには、横のつながりや協働ということになるかもしれないけど、それが広がればもっと良くなると思う。アカデミーの修了生たちで集まって「うちの地区の良いところを生かそう」とか。自分では分からないかもしれないけれど、外から見たら「その地域にはあんなに良いところがあるのだから、もっと使おうべき」と思うかもしれない。

——本年度のアカデミー受講生と水沢南地区が一緒にアクションプログラムを行いましたね。

及川 “ぼくらの奥州再発見in水沢南”と題して、ウォークラリー・ピンゴとお菓子まきを行いました。ウォークラリー・ピンゴは、地区のお祭り“ふれあい南まつり”が行

昨年4月から始まった地区センターの指定管理者制度。現在、16カ所が制度を導入し、地区振興会が職員を雇って地区センターの管理運営を行っています。その地区センターの事務を取り仕切るのが「事務長」さん。市協働のまちづくりアカデミーの受講生(修了生)の経歴を持つ2人の事務長が昨年を振り返った、対談の様子を紹介します。

われている地区センター敷地内を歩いてクイズを解いて、景品を当てようというもの。アカデミー2班では、地区イベントのマンネリ化や参加者の固定化、若い世代の行事への参画不足などを地域課題と捉え、それを解決するため子どもをターゲットとした事業を実施しました。

佐藤 うちの地区は昨年度のアクションプログラムも引き受けていたので、今回も同じ地区でいいのかと迷ったけれど、子どもをターゲットにした効果で人出が見込めると考え、一緒にやることを決めました。同じ課題を感じていたからね。

——その成果はいかがでしたか？

佐藤 確実な数字を把握するのは難しいけれど、千人以上は来場した。今までで最高の人出になったね。

アカデミーでの学びを地区で生かす



羽田地区センター
及川 辰徳 事務長 (35)

昭和56年水沢区生まれ。地元高校を卒業後、国立天文台水沢VLB観測所への派遣職員を経て、羽田地区センターの事務長に応募し採用される。市協働のまちづくりアカデミー3期生(平成28年度生)。趣味は小説の執筆

市民提案型協働支援事業 制度説明会&実績報告会

事業の活用方法の説明会と、平成28年度認定事業の実績報告会を開催します。
■日時 1月29日(日) 午後1時～5時
■会場 市民活動支援センター会議室(メイプル地下)
■内容 ①28年度ステップアップコース認定団体による公開プレゼンテーション実績報告会 ②29年度市民提案型協働支援事業補助金制度の説明会



IBCアナウンス学院
河辺 邦博 学院長

平成28年度 市民憲章推進大会 協働のまちづくりフォーラム

市民主体のまちづくりを推進する経験交流の場として、フォーラムを開催します。
■日時 2月13日(日)午後1時半～4時
■会場 市文化会館(2ホール)中ホール
■内容 協働のまちづくりアカデミー受講生による実践発表、基調講演「コミュニケーションで広がる地域の未来」(IBCアナウンス学院・河辺邦博学院長)、事例紹介(あやおり夢を咲かせる女性の会・鈴木身知子会長) など

協働の花を咲かせよう

本年度、第2ステージに突入した本市の協働のまちづくり。24団体が「協働の提案テーブル」に提案し、うち20団体が市民提案型協働支援事業補助金を活用して、事業を実施しています。

奥州力又愛好会の石川会長が「ざつくばらんに話ができた」と話すように、行政と市民公益活動団体が、文字通り「同じテーブル」で語り合うこの制度を、協働の窓口としてさらに推進していきます。また、昨年度までに44人が修了している「協働のまちづくりアカデミー」も引き続き開講し、人材育成を進めます。今回の対談を行った2人の事務長は、アカデミーでの学びと実践が、新たな視点や考え、そして地区で行う事業につながっていくと教えてくれました。

いま、一つまた一つと「協働の花」が開いています。この花は、市民誰もが咲かせることができるものです。あなたも一緒に、この花を咲かせてみませんか。